

210903 名古屋城全体整備検討会議
名古屋市民オンブズマンによるメモ
傍聴 3 名

13:57

鈴木：傍聴 出席者紹介まで撮影 OK

14:00

鈴木：始める 保存整備室長鈴木
緊急事態宣言発令 やむを得ずリモート会議
別の会場で傍聴、取材
イレギュラー ご不便をおかけする
発言される際挙手を
佐治より挨拶

佐治所長：出席ありがとう

議題 3 つ

8 月 25 日石垣部会の議論を経て報告する案件

鈴木：出席者紹介

議事に入るので写真・録音はここまで
資料の確認
会議次第、出席者紹介
1-3 まで
構成員 ●本年度現状変更実績をまとめたもの配布
議事に移る

瀬口：まず資料説明して

本丸搦手馬出

鈴木：本丸搦手馬出石垣

現状変更許可申請 期間の変更

名古屋城：積みなおし計画 現状変更許可を受けている

令和 3 年半ばまでで設計予定→新型コロナの影響で 1 年程度伸ばす
令和 4 年度まで

赤羽：映りました

名古屋城：資料 1-2 一覧表の左半分 検討課題まで示した

今回 8 月末時点 検討状況

資料 1-3 9 月までに課題を解決する

年内までに中間報告

年度末までに全体像の完成形を作る

資料 1-2 石垣構造について

工学的解析出てきた (8) 現代工法の必要性 慎重に検討

排水構造

表面構造検討 来場者の導線、樹木を検討

資料 1-4 馬出の役割や歴史、修理事業の理解深めて

眺望を楽しんで

石垣や土塁の一部を改変することはできない

アプローチ検討

瀬口：意見は

アフガン戦争 20 年 馬出 アフガン戦争より長くなりそう

期間延長する ご意見

藤井：現状変更延長 やむなしと思う

資料 1-4 アプローチの施設

竹田城、堀越城 どちらも名古屋城と少し違うのでは

今後示されるのであれば浴うものを

堀越城 支える杭が何本か見えている

近年の文化庁 史跡そのものへ食い込むのは認められない

名古屋城 杭は前提としてない

事例を探してくる

瀬口：今回 土を入れなおす

どうあるべきか

まるっきり手を付けていないところにどうするかは違う

名古屋城：現在解体している

修復とともに施設を作る

少し検討がしていない 史跡にふさわしい形で復旧したい

瀬口：等高線 どういう意味があるのか
こんな等高線ができるはずがない

名古屋城：解体前測量図 右上
修復後の鳥観図 設計とともに作成
現段階は解体前

瀬口：土の盛り方 こうするわけではない 誤解を招く

小濱：資料 1-3 薄い黄土色 検討期間
グレー 済んでいるということか
報告もない？

名古屋城：9月までの優先度の高いもの 年内をめどに報告したい
時期的に遅れてしまった
この表 しづらかった

小濱：検討済み 報告されるということか
年度内？

名古屋城：優先度が高いのは年内
全体像 年度内 予定

小濱：報告しないわけではない？

名古屋城：そう

丸山：観覧車 石垣に近づくときどう安全性を確保するか
現状柵などがある
アプローチするときの安全性 どうするのか全体で検討しないといけない
ここだけじゃなく全体を考えて
あまり細かいところまで議論じゃなく、方針を
実施設計までまだ

鈴木：検討します

三浦：瀬口先生「等高線」

多門櫓台 計画倒れ 土手になった

石垣積みなおし前 150年くらいたって土手が崩れた 等高線

今回土手は撤去した あたらしく付け直す

150年間でずれた形ではなく本来の形に復元 でよいか

名古屋城：その通り

三浦：復元根拠資料

何分にも計画倒れ 慶長以後ほったらかし どの形 至難

早く検討しないと間に合わなくなる

名古屋城：金城温故録を中心に検討したい

瀬口：崩れた形 誤解が誤解を招く

中間報告 年内、年度内にある

期間の延長 お諮りする

20年より長くなる ご意見があったが駄目だという話はなかった

延長 文化庁に手続きを進めることでよいか おすすめ

続けて議題の2

14:25

鈴木：説明する

さかい：8月25日石垣部会指摘を受けて調査区を修正した

資料2-8 図19 薄い青色 当初の計画

赤色 今回の調査区

変更点 調査区を拡張

犬走と推定するたたきが確認されている 外側に雨落ち遺構あるかも

二番御蔵 折れ曲がったところ

地下配管走っている やや北側に移した

613平米に増加

アプローチ

文化庁に現状変更申請したい

鈴木：最後音声途切れた

さかい：文化庁に現状変更申請したい

瀬口：ご意見ご質問を

高瀬：六番御蔵 トレンチ 残りがいい
面的に調査すべきでは

さかい：東側辺 毀損事故 良好に礎石、間知石が残っている
特に試掘調査 資料 2-7
19.20 トレンチ 2012 年度試掘 調査区設定した

高瀬：仕切りの石が並んでいる
表示するのか するのなら位置は確認した方がいい

鈴木：表示するかどうか 調査の結果を踏まえて可能であれば
調査の結果次第

瀬口：調査の仕方について意見をもらっている

さかい：4間ごと このような形になる？
残っているかどうかわかっていない
一部でも見つかるなら間隔が推定できる
拡張することでわかれば変更もする

高瀬：どういう整備をするか
十分な資料を得られるように調査
部分的な調査 足らないのではないかという心配

瀬口：黒い実線が過去の発掘
高瀬 赤い線 3か所掘る 礎石が発見できるのではないか？
「見つかったら調査区域を拡大する」でいいか

さかい：はい
礎石の部分 わかることがあれば

瀬口：雨落ち調査も
3か所 礎石にかかわらずなんらかの痕跡 はっきりさせたいということになる？

さかい：整備手法 範囲の表示を検討

位置を正確に確認したい

その中で構造にかかわる部分も

第一の目的 どの部分にどのエリア 蔵跡が立っていたのか

わかるような形で調査区設定

範囲を超えて重要なことが分かるのなら拡張できるのなら検討

瀬口：それでいいか

高瀬：表土をはいだ遺構が出てくる

整備する考え方 面的に調査すべき

その辺が理解が及んでいない 残念

面的に調査した結果をもとに整備しては

麓：私も高瀬委員の指摘に賛同

ご提案と、名古屋市の回答が食い違っている

面的に掘った方がいい 回答になっていない

これだけよく残っている

面的に掘った方がいい 私もそう思う

なぜ面的に掘る方に方針を変えないのか 解せない 意見

さかい：調査区決定する際 方針

資料 2-2 左上(1) 最小限にする

わからなかったこと 過去成果も考慮 必要最小限

位置を推定する 範囲を明確にするための最小限の面積

建物自体を復元 より詳細な構造まで復元

整備方針ならおっしゃる通り全面発掘調査

範囲の表示する 整備方針 達成できる

史跡保存上最低限 今回設定したい

高瀬：毀損事故が起こった

それについてどうしようか 見直しの調査案ができた

六番御蔵 残りがよいのを知らずに掘ったから事故につながった

反省を踏まえると、あそこは面的に調査をすべきだと思う

その辺の考えが理解できていないようで残念

麓：議題 事務局提案 もっとこうの方がいい 構成員から
高瀬、私も ほかも同じ委員
意見が複数 最初の提案通り 曲げない 言い訳を必死にやっている
建設的に会議が進んでいないよう

さかい：もうしわけない

瀬口：位置を確定したい
六番 痕跡がある
絵図がある それにしては掘るところある
成果はない？
六番 痕跡もはっきりしている しっかり調べてはどうか もっとも

佐治：貴重なご意見 再度検討してご提案させていただきます

三浦：面的に掘るのは賛成
現在の調査区 設定の仕方がおかしいと思う
2-7 下側 外側の線 2メートル以上外
雨落ち 1メートル程度
図面 2.5メートル→元の案に戻して
土ひさし 雨落ち
東ずらすのは意味がない
西雨落ち 1メートル伸ばしたら

さかい：おっしゃるとおりかと思う

瀬口：六番御蔵 建築のことがわからないと想像でやってるかも
チェックして
調査区

洲崎：六番御蔵 全面発掘

瀬口：所長が説明した

丸山：F区 設定はよかった
発掘 地下の電気上下水道
過去の施設 図面はあるか

どういうところ 図面がほしい
マンホールはどこにつながっているか

さかい：すべてはないが図面が残っているものがある
画面だけ 正門 事務所 売店
ガス管 電気 排水管

丸山：名古屋城全域の把握はしているのか
部分的な図面だけが残っているか

村木：今の時点 多くはパソコンの中に取り込んである
避けて調査区を設定している

丸山：そういうのもわかっているものは示して
かやの木 痛められているのではないか
それなりの対応がいないのではないか
施設関係

瀬口：追加調査の範囲 意見が出た
もう一回全体にかかってくるか

藤井：六番御蔵 東の方に広げる案
その1メートルなぜか 石垣部会 どういう根拠なのか
ここで1メートルひっこめろ 逆に石垣部会に説明ができないとデッドロックに
なぜ東側1メートル 根拠を教えて

さかい：1メートル 私どもの方で設定した
部会 ここに限らず絵図自体が動くこともある
余裕をもって検出できるように ギリギリではだめ
六番御蔵 東側ずらすべきではなかった

瀬口：雨落ち確認したい
総合事務所がつけた理由か？

さかい：会議の指摘

瀬口：会議の委員 伸ばせと言った 長さはわからない

総合事務所がきめた 長すぎた

さかい：そう

瀬口：短くしてもいいわけ

さかい：目的の

瀬口：東も西も三浦委員 少し伸ばす

高瀬：六番御蔵 面的にして

広げたい 確認したい

流動的に

さかい：できるように相談したい

瀬口：洲崎さんどうですか

ちょっと伸ばしたい どのような手続きしているか

洲崎：県ではどうか

調査の方法 検討して文化庁に説明して

やることになる

しっかり説明が必要

瀬口：狭くしたり伸ばすことは可能か

洲崎：史跡の保存のためなら可能

瀬口：やって

範囲 全体では具体的な定量的な指摘 長さで

修正していくということによいか

総合事務所もいいか

問題がある？

佐治：今日の意見 申請したものを全体整備に示していいか

瀬口：それでいい

次に行きたいが、休憩

鈴木：10分

瀬口：3時10分から再開

15:00

15:10

瀬口：再開

天守台穴蔵石垣

鈴木：はじめる

村木：穴蔵石垣説明

7月9日説明した

委員：画面がでない

村木：7月9日全体→石垣部会

あらためて全体でお諮り

資料3-1 調査目的 被熱劣化 積み替えられた

今後の整備修復のため 根石の残存状況

計画して

石垣部会で説明→残存だけでなく、現天守再建時に大規模改変

根石安定状況

穴蔵石垣だけでなく、橋台部分の石垣も安定性確認

目的 外周部+橋台 加えた

追加調査 3-1 ⑨橋台

3-2 橋台黄色いところ

カルバートをまたぐ形で

掘り下げられるのは限られている

広めにとった

①～⑧ 現時点で調査ができる地点

位置、規模 変更はない

調査区の大天守 西側に偏っている 指摘

背面状況も併せて

西側 調査が難しい 今回増やせていない

背面 必要性は認識 今の時点で具体的計画が立っていない
変更案にも反映できていない
資料 3-1 試掘の方法
変更点を中心に説明した

15:17

瀬口：ご質問ご意見を

小濱：根石の状況調べる

背面調べる 掘削はどこまでやるのか
コンクリート床 一部撤去
梁が邪魔して穴蔵石垣にくっついている
穴蔵石垣上の方 あとから積んだ
根石
背面はどう調べるのか
レーダー？ファイバースコープ？

村木：どのくらい掘るか どう掘るか

江戸時代の遺構まで掘り下げたい
今の床面 何センチか把握していない
根石 残っていたらそれを露出するわけではない
その時にかなり今の構造物 調査が困難？
心配しているが、梁はずさない
掘れる面積 狭くなる
若干想定より広めに 作業性がよくしたい

背面調査

ビデオスコープ、レーダー探査 すでに行っている
推定はできる
実際に調査 今後やらないといけない
実際に石を外す どのような形でやるか検討中

小濱：残存状況 安定状況 把握

どういように調べるのか
土が乱されていれば安定？

村木：写真が残っている

状況がどうなっているか 実際に掘り下げる

石垣部会 西形先生から指摘 安定かどうか
検証方法も含めて検討
調査所見をどう判断するか 検討

小濱：はい

瀬口：石垣の安定状態 資料を出して
安全と安定は違う
わからないでもないが どう考えればよいか
よいか
実際に掘削の大きさ
梁が地中

小濱：図面 資料 3-3
木造復元地階 意味があるのか

荒井：3-2 現天守閣
3-3 木造
1つ 石垣自体の安定性
目的 4つめ5つめ 木造復元基礎構造検討にも必要
ここに載せている
ほぼ同じ図面
添付している

小濱：地階の平面図
木造 基礎構造 柱梁
地階の木造復元 難しい？

荒井：7月全体整備検討会議 基礎構造検討会議やった
検討を進めている
まだ基礎構造の形 固まっていない

小濱：掘削 試掘調査 関係ないということか

瀬口：参考に入れた
ほかにはいいか
とくになければ天守台穴蔵 調査位置 橋台が追加になった

範囲が拡大した ご了承いただければ文化庁に現状変更
了承得られた
手続きを進めて
以上を持ちまして議事終了

鈴木：先生ありがとう
予定していた議題は以上
これで終了
15：27